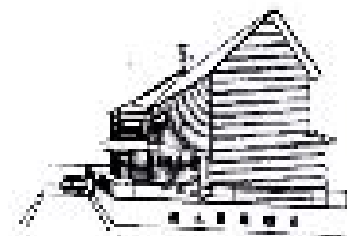


<今朝の聖書から> 詩編119:105に“あなたのみ言葉はわが足のともしび、わが道の光です”という個所があります。イスラエルの信仰において、律法は、神の光を媒介するものとされました。そしてキリスト者は“私は世の光である”と語られるキリストにおいて、この媒介する役割をキリストに帰することをを行ったのです。コリント4:6では“「やみの中から光が照りいでよ」と仰せになった神は、キリストの顔に輝く神の栄光の知識を明らかにするために、わたしたちの心を照して下さったのである”とパウロによって語られていることが、一番明らかにしているでしょう。今朝の短い個所から二つの言葉を選んでみてみましょう。一つはこの言葉“光”です。“あなた方は世の光(単数)”すなわち教会だと語っておられるのです。迫害下にあっても、教会は、身をひそめることと、神のみ旨によって、多くの人に信仰を継承するという、一見相反矛盾する立場に立たされました。15節に“燭台の上において”とありますが、誰が置かれるのでしょうか、神様です。このように否が応でも教会は“山の上の町”のように、仮に敵から身を隠そうと思っても、そのことのできない立場に立たされているのです。それは神様の思いであり、私たちの計画ではありません。この教会には目的が与えられていて“天にいますあなたがたの父をあがめるようにしなさい”と16節に記されている通りです。さてもう一つの言葉“塩”についても見ましょう。教会について語られています。ともに食事をするとこです。“食事の際、各自が自分の晚餐をかってに先に食べるので、飢えている人があるかと思えば、酔っている人がある始末である”と、コリント11:21で、共に食事ができなくなっている姿が激しく糾弾されていることから、いかに大切な事が分かります。なぜでしょうか。それはそのことが皆の前に明らかになっているからです。神の思いは、食事の楽しみではなく“福音を宣べ伝える”教会がなすべきことを正しく思い起こすことにあります。結果が楽しいのです。今も昔も、岩塩から塩を精製した残りは、無益なものとして野山に捨てられます。福音から離れ、教会が持つべき・担うべき福音を、この世の導かれるべき人々の妨げになるのではないかと思い、譲歩を始める時、そこには、今日いくつかの場所で見られるような、福音なき、十字架なき、ただ楽しく愉快的な社交場と化した、教会の姿があるようです。そしてこのような教会に集っても、本当のところは、楽しくもなく、目的のない諍いに直面するのです。

週報

2009年 6月 21日



伝えよう 救い主を
迎えよう 主の民を

日本フリーメソジスト

清水草薙キリスト教会

牧師 村上 定幸

ユース礼拝	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式 第一日曜日)	
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈禱会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	http://kusanagi.church.jp/	

〒424-0885

静岡市清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail grace@big.jp